

バレラ アルミロン パトリシオ (東京外国語大学・博士課程)

要旨

本発表の目的はパピアメント語の nan という標識の場所を表す機能を記述すること、およびその機能を持つようになった経緯を説明することである。パピアメント語の nan には 3 人称複数代名詞として働く機能と、名詞句に接語としてつき複数性を表す機能がある (Kouwenberg and Murray 1994: 19)。そのほかに nan が場所を表す形式 aki「ここ」、ei「そこ」、aya「あそこ」につき akinan, einan, ayanan という語を作ることがあるが、nan がついた形とついていない形で明確な意味の違いが明らかでない。本発表では場所指示詞につく nan は名詞と形容詞につき複数を表す標識および 3 人称代名詞と同じ形態素であり、その意味が複数性から場所性を表す接語に転じたと主張する。この過程には、1) 複数 3 人称代名詞の nan が複数の人がいる場所・組織を表す名詞句と一致することがあること、2) 複数標識 nan が連合複数を表すことができ、場所性のある名詞句に用いられることがあること、3) 指示詞 aki/ei/aya が特別な構造で名詞句を作り場所だけでなく照応を表すこともあるため、場所性の意味が希薄化したことに起因するであろう。

1. はじめに

パピアメント語において nan の基本的な機能は 3 人称複数代名詞と複数標識として働くことである。しかし、場所副詞に nan がつく形も見られる。そこでは nan が 3 人称複数代名詞と複数標識という機能から場所性を表すようになったと主張し、その意味拡張が起こった通時的な経緯を説明する。通時的な考察をするには十分な史料が存在しないため、本発表で主張する通時的な変化の過程はあくまでも現時点のパピアメント語の姿に基づいた憶測である。

本発表の流れは次の通りである。本節ではまずパピアメント語とはどんな言語であることを説明し、本発表で用いるデータを紹介する。第 2 節では場所副詞、第 3 節ではパピアメント語における nan の基本的な情報を紹介する。第 4 節では場所副詞複数の形式について調査を行い、その出現の仕方と特徴について考察する。最後第 5 節で結論をまとめる。

なお、特に断りのない限り、日本語訳、例文の文字飾りは全部発表者によるものである。出典のない例文は発表者のパピアメント語口語データから抽出したものである。

1.1. パピアメント語

パピアメント語はカリブ海に位置する ABC 諸島 (アルバ島、ボネール島、キュラソー島) で話されているスペイン語・ポルトガル語系クレオールである。基本語順が SVO であり、間接目的語が直接目的語に先行する。パピアメント語の語彙の大部分はスペイン語、ポルトガル語、オランダ語に由来する。クレオールの発生過程には、文法には影響をするが、語彙をほとんど残さない「基層言語」がある。パピアメント語の基層言語は西アフリカのクワ諸語とバントゥ系の言語を基層言語とする (Jacobs 2009: 323)。3 人称複数代名詞と複数標識が同形であるというパピアメント語の特徴は西アフリカの言語にも見られ、大西洋のほかのクレオールにも見られる (Holm 2010: 215)。

1.2. データ

新聞を除いてはパピアメント語で書かれているテキストが少なく、オンライン新聞などから調査に必要なデータが得られる可能性が低い。そのため、本発表の分析が主にパピアメント語の口語データに基づいている。データを集めるために、母語話者にパピアメント語が台本なしで話されている複数の動画を書き起こしてもらった。それらの動画の長さは合計で約 30 時間に及び、各方言 (アルバ島、ボネール島、キュラソー島の方言) が約 10 時間を占める。さらに、パピアメント語を母語とするコンサルタント 1 名 (キュラソー島出身・1990 年生まれ・男性) の内省がデータの分析で貴重な助けとなった。

* 本研究は JSPS 科研費 JP21J10486 の助成を受けたものである。

2. 場所副詞

パピアメント語には場所を表す形式 *aki* 「ここ」、*ei* 「そこ」、*aya* 「あそこ」がある。これらは副詞として働くことも、場所を表す指示代名詞として働くこともある。なお、本発表ではこれらの名称便宜上「場所副詞」に統一する。場所副詞 *aki* 「ここ」、*ei* 「そこ」、*aya* 「あそこ」は [定冠詞 *e* + 名詞句 + 場所副詞] の形で用いられることが多い。この形式は日本語の「この / その / あの [名詞句]」に当たる。

- (1) *e persona aki* (1') *e persona ei* (1'') *e persona aya* [作例]
ART.DEF person here ART.DEF person there ART.DEF person yonder
「この人」 「その人」 「あの人」

場所副詞 *aki*, *ei*, *aya* の日本語を便宜上「ここ」、「そこ」、「あそこ」に当てているが、これらの使い分けに関する詳細な研究は管見の限りないようである。どの形式にも具体的な場所 (現場指示) と前後の状況との照応を指す機能がある。以下 (2-4) は *aki*, *ei*, *aya* が用いられている例である。(2) と (3) は場所を表す例であり、(4) は前方照応を表す例である。

- (2) *E hende=nan nobo ku a bin aki, nan tambe por vota.*
ART.DEF people=PL new that PFV come here 3PL also can vote
「ここに新しく来た人たちも投票することができる。」

- (3) *Rancho ta p=aya banda.*
PN COP for=yonder side
「Rancho はあの辺だ。」

- (4) *Ei ta kaminda ku m=a yega Aruba na aña sinkuenti dos.*
there COP where that 1SG=PFV arrive PN in year fifty two
「そこは私が 52 年にアルバ島に来たときについての場所だ。」

発表者の口語データに基づくと、この 3 つの形式のうち、*aya* 「あそこ」が使用される割合が非常に少ない。*aki* 「ここ」の延べ語数が 1465、*ei* 「そこ」の延べ語数が 1856 であるのに対し、*aya* 「あそこ」が 114 しかない。*aya* が具体的な場所を表すことが多いようである。114 のうちに、*e tempo aya* 「あの頃」、*aki aya* 「あちらこちら」という慣用表現以外には具体的な場所を示す例が多いようである。それに対して *ei* は、照応を表したり、*e or=ei* ([ART.DEF time=there] 「それで」), *t=ei* ([COP=there] 「いる、出席している」), *Hesus=ei* ([Jesus=there] 「あらまあ」) のように慣用表現にも用いられたりすることが多い。*aki* には具体的な場所を表す機能、照応を表す機能のほかにもう 1 つ特殊な機能がある。それは、[*aki* + [距離・時間を表す表現]] という構造で「ここから [距離を表す表現]」と「今から [時間を表す表現] 後に」を表す機能である。例 (5) を参照されたい。

- (5) *Aki un par di luna, un par di aña, nos ta sinta n=e mesun ko.*
here ART.INDEF couple of month ART.INDEF couple of year 1PL IPFV sit at=ART.DEF
same thing
「今から数か月後、数年後、我々は同じ問題を扱っていることになるだろう。」

3. nan

nan は主に 2 つの機能を持っている。1 つ目は、3 人称複数代名詞として働くことである。2 つ目は、語のあとにつき複数を表すことである。複数を表す *nan* は *n* で終わる語につく場合は片方の *n* が脱落する (例: *man* 「手」 + *nan* = *manan* 「複数の手」)。複数を表す *nan* を接尾辞とする研究 (Departamento di Enseñansa Aruba 2010) も接語 (Kouwenberg and Murray 1994) とする研究もある。本発表では *nan* を接語として扱う。その理由は、1) *nan* のあとに接辞がつくことがない、2) *nan* は名詞句全体にかかる

(Kouwenberg and Murray 1994: 19)、3) 名詞と形容詞のほかに、(6) のように名詞句の中にある場合、動詞にもつくことができる。

(6) [ko=i hunga]=nan
thing=of play=PL
「複数のおもちゃ」

パピアメント語では場所副詞 *aki, ei, aya* につき、*akinan, einan, ayanan* という形式が作られることがある。*nan* がついていない形とついている形は類似した意味を表す。例えば、(7) の *akinan* も「ここ」と訳される。

(7) *awor akinan*
now here
「今ここ」

nan が *akinan, einan, ayanan* という形式においてどういう機能を果たしているのかについて、Departamento di Enseñansa Aruba (2010: 27) は「場所副詞を強調している」と述べている。さらに、Departamento di Enseñansa Aruba (2010: 27-28) は *akinanan* のような *nan* が 2 回ついている形を用いる話者もいるという。Castillo (2022: 162) は *nan* の複数標識が連合複数 (associative plural) を表すことに言及し、*akinan* と *ayanan* についてそれぞれ話者の領域に対する近い領域と遠い領域という連合的な意味 (associative meaning) を表すようになったとしている。Castillo (2022) は *einan* という形式について記述をしていない。先行研究には *aki(nan), ei(nan), aya(nan)* の使い分けを説明しているものはないようである。そのほかに、Castillo (2022) は連合的な意味という用語を用いて *nan* の複数標識の機能から場所副詞につくようになったとしているが、この連合的な意味を持った形式は本来の場所副詞と具体的にどのような異なるかという点について説明をしていない。

4. 調査

発表者の口語データで *nan* がついている場所副詞と、ついていない場所副詞の例を収集する。*nan* のある形式とない形式の違いをコンサルタントの内省を参考にしつつ考察する。

そのほかに、*den* 「に、で」、*riba* 「の上に」、*bou* 「の下に」という前置詞がついた形 *akiden(nan) / eiden(nan) / ayaden(nan)*、*akiriba(nan) / eiriba(nan) / ayariba, akibou(nan) / eibou(nan) / ayabounan* が見つかった。さらに *akinanan, einanan, ayananan* という形が見つかった。Departamento di Enseñansa Aruba (2010) が言及していた *nan* が 2 回つく形だと思われる。パピアメント語には *na* 「に、で」という前置詞もあるため、これらの形式には前置詞の *na* が入っている可能性もある。しかし、ほかの前置詞とは異なり “*akina*”, “*eina*”, “*ayana*” という *nan* がついていない形が 1 例も見つかっていないため *akinanan, einanan, ayananan* を *nan* が 2 回ついた形として解釈する。場所副詞に前置詞がついた形および *nan* が 2 回ついた形も口語データから例を収集し考察する。

調査 1 では *akinan(an), einan(an), ayanan(an)* の特徴について、調査 2 では前置詞を含む形式の特徴について考察する。

4.1. 調査 1

本節では *akinan(an), einan(an), ayanan(an)* の特徴および、*nan* の意味変化について考察する。4.1.1 では、発表者口語データにあったそれらの形式の現れ方を単独で用いられる *aki, ei, aya* と照らし合わせて分析を行う。4.1.2 では発表者口語データにあった例とコンサルタントの作例に基づき、*nan* が場所を表すようになった通時的な変化について考察する。

4.1.1. *akinan(an), einan(an), ayanan(an)* という形式

表 1 に発表者の口語データにおける場所副詞 *aki* 「ここ」、*ei* 「そこ」、*aya* 「あそこ」およびそれらをもととする形の出現回数を挙げる。「+」で始まる項目は場所副詞 *aki, ei, aya* にその形が後続することを表す。例えば *aki+nan* が *akinan* という形を意味する。

表 1: aki, ei, aya に nan がついた形式とついていない形式の出現

系列	単独		+nan 例	+nanan 例	+nan(an) の合計		合計	
	例	%			例	%	例	%
aki	1448	86.24%	188	43	231	13.76%	1679	100%
ei	1851	76.74%	440	121	561	23.26%	2412	100%
aya	106	83.46%	20	1	21	16.54%	127	100%

nan(an) がついた形式がついていない場所副詞に比べると出現頻度が低いことが分かる。しかし、aki 系列と aya 系列に比べると ei 系列で nan がついた形式の頻度が比較的高いことが分かる。

単独で現れる場所副詞 aki, ei, aya に比べて、nan がついた akinan, einan, ayanan のほうが慣用的な用法が少なく、単純に副詞もしくは指示代名詞として用いられることが多いようである。例えば (8) における ayanan は単純に場所を表す副詞として働いている。

(8) *Ayanan ta lugá kaminda nos ta dal nos beter=nan antes.*
yonder COP place where 1PL IPFV hit 1PL shot_of_liquor=PL before
「あそこは、以前私たちがショットを飲んでいたので。」

これは nan が 2 回ついた形にも適用されるようである。例えば (9) の akinanan も場所副詞として働いている。

(9) *El a subi akinanan paso hende ta sigui drenta.*
3SG PFV go_up here because people IPFV follow enter
「人が入り続けていたので、彼はここに上がってきた。」

しかし、[定冠詞 + NP + akinan / einan / ayanan] という構造も見られた。(10) では nan がついた akinan が場所をではなく、照応を表しているといえる。

(10) (...) *den e kaso akinan, mi famia.*
in ART.DEF case here 1SG family
「(略) この場合は私の家族だ。」

なお、コンサルタントによると [定冠詞 + NP + aki(nan) / ei(nan) / aya(nan)] という構造では nan がついた形のほうが全般的に場所を表していると解釈されやすい。

nan が 2 回ついた akinanan/einanan/ayananan でも名詞句を定冠詞と挟む構造の例も見られた。以下 (11) はこの構造の例である。そこでは akinanan の最初の a が省略されている。発表者の口語データに基づく、この省略は特に前にくる語が母音で終わる場合に起こるようである。

(11) *E gai 'kinanan a laga su kasá e tempo einanan pa bin biba serka mi.*
ART.DEF guy here PFV let 3SG.POSS spouse ART.DEF time there for come live by 1SG
「この男はそのころ妻を捨てて私と一緒に住むようになった。」

この [定冠詞 + NP + akinan(an) / einan(an) / ayanan(an)] は nan がついていない [定冠詞 + NP + aki / ei / aya] より頻度が著しく低いようである。例えば aki 系列では aki 単独がこの構造に用いられている例が 517 件あるのに対し、akinan(an) が用いられている例が 17 件しかない。

そのほか、aki un rato (“here a while” 「ここからしばらく」) のように [aki + [距離・時間を表す表現]] という構造の例が見られたが、nan がついた akinan(an) には似た例は見られなかった。コンサルタントに尋ねたところ、そのような文脈で aki の代わりに akinan(an) を用いると非文となると言われた。

以上のことから、nan(an) がついた形 akinan(an), einan(an), ayanan(an) が元の場所副詞に比べ、慣用表現にそれほど使われず、純粋な場所を表す場合に好まれる傾向があることが分かった。このことは、

照応や慣用表現によく用いられる ei 系列に nan(an) がついた形が多いという事実にも裏付けられている。口語データに基づき aya は単独で場所を示すが多いようであったが、その系列では nan(an) がついた形式が少ない点が予想外であった。そもそも、aya 系列の例が少なく、その意味・機能に関して一般化するのが難しいようである。

4.1.2. nan の意味変化

本節では nan が場所を表すようになった通時的な変化について考察する。この変化は2つの方向から起きたと思われる。それは以下図1のように、1) 3人称複数代名詞 > 場所を表す名詞と一致するようになる > 場所性を表すようになる、2) 複数標識 > 近似複数の形で場所を表す文脈に用いられるようになる > 場所性を表すようになる、という2つの過程である。

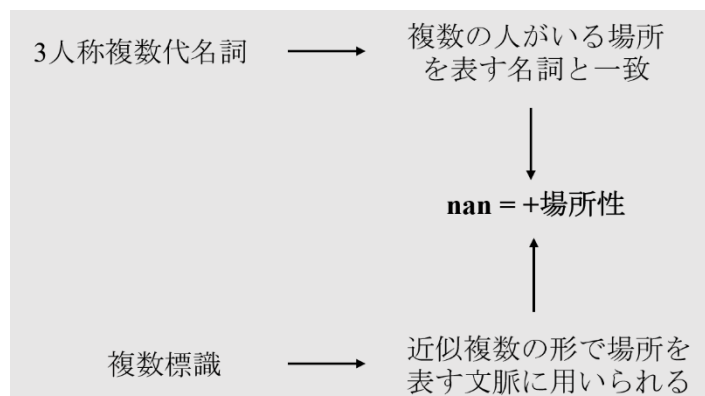


図1: nan が場所性を表すようになった経緯

まず、(12) のように、国を表す語 (Hulanda 「オランダ」 など) が 3 人称複数 nan と同一指示であることがある。

(12) *Mi ta kere ku di parti di Hulanda_i, nan_i ta yuda.*

1SG IPFV believe that of part of PN 3PL IPFV help

「オランダの方から、彼ら (オランダ側) が手伝ってくれると思う。」

これは「国」を国民の集合、場合によってはその政府にいる人の集合としてみなすことからこのように 3 人称複数と同一指示で用いられるようになったと思われる。しかし、「国」を移動動詞の目的語、前置詞の支配に置かれる「場所」としても捉えられることから nan と場所性が関連付けされていると考えられる。

そのほかに、Castillo (2022) が指摘しているように、複数標識の nan は連合複数を表すことができる。

(13) のように連合複数を表している名詞句 (mama=nan 「母および母に関係する人たち」)、が場所を表しているように解釈できることがある。なお、複数標識 nan が無い “na mi mama” 「母の家に / で」も可能であるが、複数の人が住む家庭を指す場合には nan がついた形が用いられやすいであろう。

(13) *Mi ta na mi mama=nan.* [コンサルタント作例]

1SG COP in 1SG mother=PL

「母 (および母に関係する人たち) の家にいる。」

このように、3 人称代名詞としての nan も、複数標識としての nan も「場所」を表すようになった。そのほかに、場所副詞は照応機能があり、慣用句に用いられることが多く、その場所性が低くなったと考えられる。そこで、場所を表す nan を接語としてつけることにより照応機能や慣用句と区別できるようになったのであろう。なお、nan がついた形でも例が比較的少ないが場所以外の意味も表すことがある。これは nan が akinanan のように 2 回つくようになった原因の 1 つであろう。

4.2. 調査2

ここでは *aki*, *ei*, *aya* に前置詞 *den* 「に、で」、*riba* 「の上に」、*bou* 「の下に」がついた形について考察する。以下表2に用例数を挙げる。

表2: パピアメント語口語データにおける場所副詞をもととする形式の出現

	+den	+dennan	+riba	+ribanan	+bou	+bounan
<i>aki</i>	23	6	5	1	5	1
<i>ei</i>	55	13	3	4	15	5
<i>aya</i>	1	2	2	0	0	4

これらの形式の特徴は前置詞の意味合いが残ることが多いという点である。例えば以下 (14) と (15) における *akiden*, *eidennan* がどれも「ある空間の中」という意味を含意している。(14)では *akiden* が *EIFÓ* 「外」と対立している。(15)では話者が昔住んでいたところから一生出られないという過去の気持ちを述べている。

(14) *Nos ta bai papia over di (...) loke a pasa akiden.*

1PL IPFV go talk over of what PFV pass here

「我々は(略)ここ(この中)で起きていることについて話すのだ。」

(15) *Lo mi no a sali fo=i eidennan na bida.*

IRR 1SG NEG PFV leave from=of there in life

「そこ(その中)から一生抜け出せないだろう。」

(16)でも *aya* 「あそこ」と *aki* 「ここ」のほかにも *riba* と *bou* が対立を表している。

(16) *Famia tabata biba ayariba, negoshi tabata akibou.*

family COP.PST live yonder store COP.PST here

「家族はあの上の辺に、お店はこの下の辺にあった。」

eibounan を除いては基本的に *nan* がついていない形のほうが用例が多いが、特に意味や使い方の違いがないようである。コンサルタントによると、単独の *aki*, *ei*, *aya* が前置詞 *den* 「に、で」、*riba* 「の上に」、*bou* 「の下に」に支配されることはできない。前置詞がついた形に *nan* が後続できることから *nan* 自体が前置詞の支配に置かれていると考えることができる。このことから、これらの形式でも *nan* は場所を表す標識として用いられているといえる。

5. おわりに

本発表で *nan* が場所を表すようになった経緯、および、場所副詞に *nan* や前置詞がついた形式の意味についてみてきた。

nan の意味変化に関して以下の2点がかかわっている。

- 1) 3人称複数代名詞の *nan* が場所性のある名詞句と同一指示で用いられること。
- 2) 複数標識 *nan* が連合複数を表すことができ、場所性のある名詞句に用いられること。

これらのことから、*nan* が場所性を表すようになったと考えられる。この場所性の解釈は、場所副詞に *nan* がついた形のほうが具体的な場所・現場指示を表す傾向があることに裏付けられている。これで、Castillo (2022) が主張した「*akinan* と *ayanan* における *nan* が連合複数を表す *nan* の機能から発達した」という記述は不完全ではあったが正しいことを証明した。言い換えると、*nan* がついていない *aki* 「ここ」、*ei* 「そこ」、*aya* 「あそこ」が慣用句、名詞句を定冠詞と挟む構造に用いられることが多いため、本来の場所性の意味が希薄化し、*nan* を追加することにより曖昧さを回避するのに用いるようになったといえる。なお、場所副詞に *nan* が2回つく形もあり、*nan* がついた形でも慣用句などに用いられるこ

とから、nan はあらゆる場面において具体的な場所・現場指示を必ずしも表しているとは言い切れない。これは場所・現場指示を表す文法語が照応の意味を獲得する傾向がかなり強い証拠であるかもしれない。

場所副詞に前置詞がついた形式は本来の前置詞の意味を保っているという特徴を有している。これらに nan がついた場合はあるが、意味などが変わることはないようである。nan が前置詞に後続することから、この文脈でも nan が場所の標識として働いていることがうかがえる。

略語一覧

1, 2, 3	1, 2, 3 人称	INDEF	不定	PFV	完了	PST	過去
ART	冠詞	IPFV	未完了	PL	複数	SG	単数
COP	コピュラ	IRR	非現実	PN	固有名詞		
DEF	定	NEG	否定	POSS	所有		

参考文献

- Castillo, Yolanda Rivera (2022) *A description of Papiamentu: A Creole Language of the Caribbean Area*. Leiden/Boston: Brill.
- Departamento di Enseñansa Aruba (2010) *Manual di Gramatica di Papiamentu – Morfologia*. Aruba: Departamento di Enseñansa.
- Holm, John Alexander (2010) *An introduction to pidgin and creoles*. Cambridge: Cambridge University Press.
- Jacobs, Bart (2009) The Upper Guinea origins of Papiamentu Linguistic and historical evidence. *Diachronica* 26(3): 319-379.
- Kouwenberg, Silvia and Eric Murray (1994) *Papiamentu* (Languages of the world/Materials 68) München: Lincom Europa.